
千葉県下高等学校の体育授業における種目の取り扱いに関する調査

植草 完¹ 下永田 修二²

¹植草学園短期大学 ²千葉大学教育学部

Research of syllabus planning on high school physical education

Tamotsu UEKUSA¹ and Shuji SHIMONAGATA²

¹Uekusa Gakuen Junior College ²Chiba University, Faculty of Education

Abstract

It is necessary for revising syllabus planning on high school physical education in recent years. That needs a lot of choices of sports activities for each student. The purpose of this study is to show how many sports activities is executed and what kind of sports are executed in high school physical education. The syllabus plannings about physical education in 2001 on Chiba prefecture's high schools were researched. The results are as follows;

1. The greater part of sports activities on physical education were the long distance running and ball games.
2. Six sports activities were executed on the first and second grade, and three activities were executed on the third grade approximately.

I 緒言

平成11年に告示された高等学校学習指導要領¹⁾は、平成15年4月より施行される。教科「保健体育」科目「体育」の内容の取り扱いについては「個に応じた指導」の充実のために「運動の取り上げ方の弾力化」がはかられている。従前より高等学校においては地域や学校の実態に応じて弾力的な内容の取り扱いが行われているところであるが、教員は、他校の様子を知る機会が少なく、新教育課程の実施を目前としたこの時期に、授業の形態や取り扱っている種目についての情報をまとめることは、参考になることも多いと考える。

II 研究目的

高等学校の教科「保健体育」科目「体育」の授業が、どのように実施されているか、その実施形態と取り扱っている種目をまとめることにより、

千葉県における高等学校の体育実技の実態を明らかにし、各高等学校がカリキュラムや年間指導計画を作成するときの基礎資料を得ることを目的とした。

III 方法

1) 調査方法

千葉県全日制高等学校204校における平成13年度の年間指導計画より、学年別・男女別に実施種目をまとめた。対象校は男子179校（1年生179校・2年生179校・3年生177校）女子202校（1年生202校・2年生200校・3年生200校）である。

2) 集計方法

集計にあたっては学習指導要領の領域別を基本としたが、E 球技・F 武道については各種目別にも集計した。

また、C 陸上競技については、冬季に「持続走」(持久走・マラソン・長距離走と表現をしている学校も認められたが持続走として集計した)を単独で実施している学校が多いことから、それぞれ集計した。

H 体育理論については、他領域の指導において取り扱われることが多いと考えられ、実際年間指導計画の中に配置されているものが少ないので集計対象から除外した。

IV 結果

1) 「体育」実技種目の実施状況

1-1) 領域別実施状況

領域別実施状況を表1に示したが、男女とも実施校数の最も多い領域はE 球技となっており、3カ年で一度も実施しない学校は認められなかった。

学年別にみると1, 2学年においてC 陸上競技中の「持続走」がE 球技に次いで多く実施されていた。

表1 領域別実施校数

男子

領域	1 学年	2 学年	3 学年	実施校	未実施校	実施率 (%)
A 体操	66	44	37	71	108	39.7
B 器械運動	66	33	5	84	95	46.9
C 陸上競技	124	67	25	137	42	76.5
持続走	169	165	42	169	10	94.4
D 水泳	49	48	32	51	128	28.4
E 球技	176	179	176	179	0	100.0
F 武道	137	121	23	157	22	87.7
G ダンス	12	10	6	18	161	10.1
その他	6	7	28	32	147	17.9

女子

領域	1 学年	2 学年	3 学年	実施校	未実施校	実施率 (%)
A 体操	90	68	46	96	106	47.5
B 器械運動	102	46	7	120	82	59.4
C 陸上競技	116	61	26	135	67	66.8
持続走	187	180	49	191	11	94.6
D 水泳	53	50	34	55	147	27.2
E 球技	200	200	200	202	0	100.0
F 武道	28	20	14	37	165	18.3
G ダンス	67	61	35	100	102	49.5
その他	14	16	39	49	153	19.8

※実施校とは3年間のうちに実施されている学校であり、未実施校とは3年間一度も実施されない学校である。(必修・選択にかかわらず)

1-2) 実施種目数

表2は各学年男女別の実施種目数の状況を示しているが、平均実施種目数と実施数の分布においては、男子男女差はほとんど認められなかった。各学年における実施種目数の平均は、1学年が男子6.0種目、女子5.9種目と最も多く、2学年は男

子5.8種目、女子5.6種目と1学年に比べ若干減少し、3学年は男子3.5種目、女子3.6種目と2種目以上減少していた。また、1学年で一番多い実施種目数は6種目であり、男子54校、女子62校、2学年でも6種目であり、男子51校、女子48校、3学年では2種目であり、男女ともに57校となっていた。

表2 実施種目数

男子			
年	1学	2学	3学
種目数	年17 9校	年17 9校	年17 7校
10	3	1	1
9	5	7	
8	16	11	2
7	32	29	7
6	54	51	9
5	40	47	25
4	26	22	30
3	3	11	42
2			57
1			4
最多	10	10	10
最少	3	3	1
平均	6.0	5.8	3.5

女子			
年	1学	2学	3学
種目数	年20 2校	年20 0校	年20 0校
10		1	1
9	9	4	
8	21	21	1
7	29	24	9
6	62	48	8
5	44	45	36
4	32	45	36
3	5	12	48
2			57
1			4
最多	9	10	10
最少	3	3	1
平均	5.9	5.6	3.6

1-3) 種目別実施状況

種目別に実施校数の多い順に集計した結果を表3に示した。1, 2学年において最も実施数の多い種目は男女ともに持続走であった。3学年では、男子はサッカーが159校と最も多く、女子はバレーボールが162校と最も多く実施された。3年間を通しては、男子において、サッカーとバスケットボールが176校と最も多く、女子においては、バスケットボールが195校で一番多く、次いで、バレーボールが192校という順番であった。

また、表4は自然との関わりの深い「水辺活動」や、履修させることができるとされた「レスリング」およびその他の種目の実施状況を集計したものである。その他の種目では、男女ともにゴルフが最も多く、ついで、ターゲットバードゴルフという順番であった。また、種目別の実施状況を表5に示した。

V 考察

1) 領域別実施状況

領域別の実施状況と現行の指導要領との関係のみをみると、各学年において必修科目となって

いる体操が必修である割合が39.7%と低い傾向が認められる。しかし、この体操については年間指導計画の中に単独で設定されているものについて集計したが、体操は他領域の実施の際にも取り扱うこととされていることから、実際の取り扱いは本結果よりも多くなっていると考えられる。また、体操の領域に関しては、平成15年度から実施される新学習指導要領においては、「体づくり運動」に名称が変更し、内容も大きく変更される部分である。この「体づくり運動」は、「体操」同様すべての学年において必修となっているが、その内容は、「体ほぐしの運動」と「体力を高める運動」とに大きく二分されている。さらに、「体力を高める運動」に関しては、①大きな力を発揮する能力を高めるための運動、②スピーディーなあるいはパワフルな動きができる能力を高めるための運動、③動きを持続する能力を高めるための運動、④体の柔らかさを高めるための運動、⑤動きの巧みさを高めるための運動、⑥総合的に体力を高めるための運動によって構成されている。この中でも、園山²⁾は、「体力を高める運動については、動きを持続する能力を高めるための運動が重視さ

表3 種目別実施校数ランキング

男子

	1年 179校	校数	2年 179校	校数	3年 177校	校数	3年間 179校	校数
1	持続走	169	持続走	165	サッカー	159	サッカー	176
2	サッカー	131	サッカー	144	バスケットボール	156	バスケットボール	176
3	陸上競技	124	バスケットボール	136	バレーボール	139	持続走	169
4	バスケットボール	115	バレーボール	110	ソフトボール	130	バレーボール	165
5	バレーボール	103	柔道	88	テニス	114	ソフトボール	151
6	柔道	98	ソフトボール	85	バドミントン	98	陸上競技	137
7	剣道	84	剣道	74	卓球	74	テニス	122
8	体操	66	陸上競技	67	持続走	43	柔道	114
9	器械運動		水泳	48	体操	38	剣道	104
10	水泳	49	体操	44	水泳	32	バドミントン	101
11	ソフトボール	40	テニス	37	陸上競技	26	器械運動	84
12	ハンドボール	25	器械運動	33	ハンドボール	24	卓球	82
13	バドミントン	16	ハンドボール	27	柔道	17	体操	71
14	テニス	16	バドミントン	25	剣道	14	ハンドボール	52
15	ダンス	12	卓球	19	ダンス	9	水泳	51
16	卓球	11	ラグビー	10	器械運動	6	ラグビー	18
17	ラグビー	8	ダンス	10	ラグビー	5	ダンス	18

女子

	1年 202校	校数	2年 200校	校数	3年 200校	校数	3年間 202校	校数
1	持続走	187	持続走	180	バレーボール	162	バスケットボール	195
2	バレーボール	133	バレーボール	138	バスケットボール	161	バレーボール	192
3	バスケットボール	131	バスケットボール	133	テニス	159	持続走	191
4	陸上競技	116	テニス	119	バドミントン	150	テニス	172
5	器械運動	102	バドミントン	95	ソフトボール	122	バドミントン	161
6	体操	90	ソフトボール	70	サッカー	114	ソフトボール	145
7	テニス	79	体操	68	卓球	105	陸上競技	135
8	ダンス	67	陸上競技	61	持続走	49	サッカー	130
9	バドミントン	63	ダンス	61	体操	46	卓球	126
10	水泳	53	サッカー	51	ダンス	35	器械運動	120
11	ソフトボール	53	水泳	50	水泳	34	ダンス	100
12	卓球	41	卓球	49	ハンドボール	26	体操	96
13	サッカー	37	器械運動	46	陸上競技	26	水泳	75
14	ハンドボール	29	ハンドボール	23	柔道	9	ハンドボール	51
15	柔道	20	剣道	15	器械運動	7	柔道	25
16	剣道	19	柔道	13	剣道	7	剣道	25
17	弓道	2	ラグビー	3	なぎなた	1	ラグビー	3
18	なぎなた	1	弓道	1	弓道	1	なぎなた	2
19	ラグビー	1	なぎなた		ラグビー		弓道	2

※実施校数が同じ場合は必修で実施している校数の多い順とした。それも同じ場合は野線で区切らない。

表4 その他の種目の実施状況

男子

種目名	必修	選択	実施校数
レスリング	1年 4		4
	2年 1		1
	3年	1	1
水辺活動	3年	1	1
ゴルフ	2年		
	3年 1	11	12
ターゲットハートゴルフ	2年 2		2
	3年	9	9
インディアカ	1年 1		1
	2年	1	1
	3年	1	1
タッチフット	2年	1	1
	3年	1	1
タグラグビー	1年 1		1
	2年	1	1
	3年	1	1
野球	2年	1	1
	3年	4	4
フライングディスク	2年 1		1
	3年	1	1
ゲートボール	3年	2	2
ユニホック	2年 1		1
キックベース	3年	2	2
ペタンク	3年	1	1
ホウリング	3年	1	1

女子

種目名	必修	選択	実施校数
レスリング	3年	1	1
水辺活動	3年	1	1
ゴルフ	1年 2		2
	2年 2		2
	3年	14	14
ターゲットハートゴルフ	1年 1		1
	2年 5		5
	3年 2	12	14
インディアカ	1年 2		2
	2年 1	1	2
	3年 2	1	3
タッチフット	2年	1	1
タグラグビー	1年 1		1
	2年	1	1
	3年	1	1
野球	2年	1	1
	3年	2	2
フライングディスク	1年 1		1
	2年 1		1
	3年	2	2
ゲートボール	3年	4	4
ユニホック	1年	1	1
	2年 2	1	3
	3年	1	1
キックベース	1年 2		2
	2年 2		2
	3年 2	2	4
ペタンク	3年	1	1
ホウリング	3年	1	1
ティールール	1年 6		6
	2年 1		1
新体操	2年 1		1
	3年 1		1

れ、指導の重点化が図られている。」と述べられている。そこで、表1の持続走の実施状況を見ると男子の実施率が94.4%、女子の未実施校が94.6%と非常に高い傾向を示している。この持続走は「体づくり運動」の「動きを持続する能力を高めるための運動」にも含まれる内容であり、今回の指導要領の改訂により、現行の指導要領では実践の難しかった「体操」領域が、内容として幅を持たせてある「体づくり運動」に変更になったことで、より実践しやすくなると考えられる。

2) 実施種目数

表2の実施種目数をみると、男女ともに1,2学年では平均5~6種目、3学年では平均3種目と3学年において、種目数が減少する傾向が認められた。現行の学習指導要領³⁾では、3学年ともに「体操」以外に3~4領域を選択するように示されている。この現行の指導要領と照合すると、今回の表2に示す結果は、3学年において種目数が減少しており、現行の指導要領とは相反する。しかし、新学習指導要領¹⁾によると、第3学年における種目数に関しては、2~4領域と選択数に幅を持たせてあり、しかも、選択数の下限を緩やかにしている。この新学習指導要領の改訂と本研究の実施種目数に関する結果は同様の傾向を示している。そこで、新指導要領の改訂の経緯から、実施種目数について考察してみる。

今回の新指導要領改訂の経緯として、平成9年9月の保健体育審議会答申（以後、保体審答申とする）と平成10年7月の教育課程審議会答申（以後、教課審答申とする）が基本方針となっている。保体審答申の中で、「運動に親しむ態度について」という項目で、学年ごとに次のような基本目標が示されている。幼稚園から小学校中学年までは、「運動が好きになる」こと、小学校高学年から中学校一学年までは、「運動の楽しさや喜びが味わえる」こと、中学校二学年から高等学校三学年までは、「運動が得意になる」ことが基本目標であると示されている。これを受けて教課審答申で、次のような体育の学年ごとのねらいを示してい

る。小学校では「児童の発達段階に応じて各種の運動に親しむことにより運動が好きになるようにする」こと、中学校では「個に応じた指導の充実を図り運動の楽しさや喜びを味わうことができるようにする」こと、高等学校では「中学校との関連を図り、運動を得意にすることができるようにする」ことをねらいとして示している。この答申を受けて、本村⁴⁾は、「小学校では『各種の運動』に親しむことが大切であること、中学校の第一学年では、小学校の高学年との関連・一貫性・繋ぎという考え方から、これまでの学習指導要領を踏襲している」と述べている。しかし、本村⁴⁾は、「小学校との違いは、中学校学習指導要領に示された『各種の運動』はすべて履修する必要はないということである。」とも述べており、『個に応じた指導』の充実を図りつつ、第二学年からの選択制授業の発展を期待した内容であると述べている。これを受けて、高等学校では、『中学校との関連』を図って、より個に応じた指導を充実させ、生徒一人ひとりの能力・適性、興味、関心等に応じて『運動を得意にする』ことをめざしている。」と本村⁴⁾は述べている。つまり、高等学校では、生徒ひとり一人の能力・適性、興味、関心等に応じた選択の仕方、生涯スポーツにつながる選択の仕方が求められており、多くの種目を経験させることに重点を置くのではなく、生徒自らが学習対象とする運動を選択できるようにすることに重点が置かれている。したがって、選択制授業を行う上で、選択できる種目数に関しては幅を持たせる必要性が考えられるが、実際に、高校における3学年では、2学年までよりもより各個人の専門性が高まり、生徒自身が個に合った運動を選択することになるので、選択して実施する種目数については、1,2学年よりも減少する可能性が考えられる。このことと、本調査における3学年の実施種目数が1,2学年よりも減少したという結果を照らし合わせて考えると、現在の高等学校体育の選択制授業においても、すでに、3学年では専門性が高まっていくような選択方法が用いられている可能性が推察される。しかし、今回の調

査では、選択方法・選択できる種目数等について明示していないため、これ以上言及することはできないが、今後、新学習指導要領の示す「運動の取り上げの弾力化」を明らかにしていくためには、運動種目の選択方法、選択できる種目数等も含めて選択制授業について調査・検討を行っていく必要がある。

3) 種目別実施状況

表3の種目別実施状況では、男女ともに1,2学年では、持続走が最も多く、次に球技種目が続いており、男子ではサッカー、女子ではバレーボールが上位を占めている。この実施状況は、学習指導要領の体育の領域及び内容（運動種目等）の取り扱いに関わっているが、持続走に関しては、1) 領域別実施状況でも述べたように、新学習指導要領の実施に伴い、「動きを継続する能力を高めるための運動」との関連性を持たせていくことが重要になってくると考えられる。また、球技の内容の取り扱いに関しては、現行の指導要領と変更点は認められず、②種目選択となっており、今後とも選択種目として大きな割合を占める内容であると考えられる。その中で、今回の改訂において、「地域や学校の実態に応じて、その他の運動についても履修させることができることとしている。」と示されていることから、ニュースポーツ等を含めて今後履修をさせることも可能であると考えられる。そこで、表4のその他の種目の実施状況をみると、インディアカ、タッチフット、ラグビー等のニュースポーツも行われているが、ゴルフが男女ともに10校以上である以外、その他の種目に関しては、ほとんど、1校ずつであり、今後、選択の幅を広げる意味でも検討が必要であろう。

VI まとめ

本研究では、平成11年に告示された高等学校学習指導要領が平成15年4月から実施される状況を受けて、現行の学習指導要領における教科「保健体育」科目「体育」の実施状況について調査を

行った。その結果、以下のことが明らかになった。

1. 領域別実施状況としては、男女ともに球技が最も多く、次いで、持続走という順であった。
2. 実施種目数については、男女とも1,2学年では5～6種目程度、3学年では3種目程度であった。

今後は、この調査結果を踏まえて、各学校の実態に合わせて、選択方法、運動種目等の選択の幅をどのように持たせていくかを検討していく必要があるであろう。

VII 参考・引用文献

- 1) 文部省：高等学校学習指導要領解説（保健体育編、体育編），文部省，1999.
- 2) 園山和夫：新・学習指導要領での中学校選択制授業はこうなる，学校体育，52(3)，20-23，1999.
- 3) 文部省：高等学校学習指導要領解説（保健体育編、体育編），文部省，1989.
- 4) 本村清人：改訂「学習指導要領」で選択制はどう変わったか，学校体育，52(3)，12-15，1999.
- 5) 永島惇正：新しい学習指導要領の理念と選択制授業，学校体育，52(3)，8-11，1999.
- 6) 浦井孝夫：新・学習指導要領での高等学校選択制授業はこうなる，学校，52(3)，16-19，1999.

表5-1 種目別実施状況(男子-1)

※集団行動・スポーツテストは本来種目として取り扱うべきものではないが、年間指導計画の中に明記している学校について参考資料として集計した。

集団行動

	実施(割合)	未実施
1年	72 (40.2)	107
2年	50 (27.9)	129
3年	41 (23.2)	136
全体	72 (40.2)	107

体操

	実施(割合)	未実施
1年	66 (36.9)	113
2年	44 (24.6)	135
3年	37 (20.9)	140
全体	71 (39.7)	108

陸上競技

	実施(割合)	未実施
1年	124 (69.3)	55
2年	67 (37.4)	112
3年	25 (14.1)	152
全体	137 (76.5)	42

水泳

	実施(割合)	未実施
1年	49 (27.4)	130
2年	48 (26.8)	131
3年	32 (18.1)	145
全体	51 (28.5)	128

バスケットボール

	実施(割合)	未実施
1年	115 (64.2)	64
2年	136 (76.0)	43
3年	156 (88.1)	21
全体	176 (98.3)	3

サッカー

	実施(割合)	未実施
1年	131 (73.2)	48
2年	144 (80.4)	35
3年	159 (89.8)	18
全体	176 (98.3)	3

スポーツテスト

	実施(割合)	未実施
1年	89 (49.7)	90
2年	84 (46.9)	95
3年	78 (44.1)	99
全体	89 (49.7)	90

器械運動

	実施(割合)	未実施
1年	66 (36.9)	113
2年	33 (18.4)	146
3年	5 (2.8)	172
全体	84 (46.9)	95

持続走

	実施(割合)	未実施
1年	169 (94.4)	10
2年	165 (92.2)	14
3年	42 (23.7)	135
全体	169 (94.4)	10

ハンドボール

	実施(割合)	未実施
1年	25 (14.0)	154
2年	27 (15.1)	152
3年	24 (13.6)	153
全体	52 (29.1)	127

ラグビー

	実施(割合)	未実施
1年	8 (4.5)	171
2年	10 (5.6)	169
3年	5 (2.8)	172
全体	18 (10.1)	161

表5-2 種目別実施状況(男子-2)

バレーボール

	実施(割合)	未実施
1年	103 (57.5)	76
2年	110 (61.5)	69
3年	139 (78.5)	38
全体	165 (92.2)	14

テニス

	実施(割合)	未実施
1年	16 (8.9)	163
2年	37 (20.7)	142
3年	114 (64.4)	63
全体	122 (68.2)	57

卓球

	実施(割合)	未実施
1年	11 (6.1)	168
2年	20 (11.2)	159
3年	74 (41.8)	103
全体	82 (44.7)	97

バドミントン

	実施(割合)	未実施
1年	16 (8.9)	163
2年	26 (14.5)	153
3年	98 (55.4)	79
全体	101 (56.4)	78

ソフトボール

	実施(割合)	未実施
1年	40 (22.3)	139
2年	85 (47.5)	94
3年	130 (73.4)	47
全体	151 (84.4)	28

柔道

	実施(割合)	未実施
1年	98 (54.7)	81
2年	88 (49.2)	91
3年	17 (9.6)	160
全体	114 (63.7)	65

剣道

	実施(割合)	未実施
1年	84 (46.9)	95
2年	74 (41.3)	105
3年	14 (7.9)	163
全体	104 (58.1)	75

ダンス

	実施(割合)	未実施
1年	12 (6.7)	167
2年	10 (5.6)	169
3年	9 (5.1)	168
全体	18 (10.1)	161

表5-3 種目別実施状況(女子-1)

集団行動

	実施(割合)	未実施
1年	80 (39.6)	122
2年	56 (28.0)	144
3年	45 (22.5)	155
全体	80 (39.6)	122

体操

	実施(割合)	未実施
1年	90 (44.6)	112
2年	68 (34.0)	132
3年	46 (23.0)	154
全体	96 (47.5)	106

陸上競技

	実施(割合)	未実施
1年	116 (57.4)	86
2年	61 (30.5)	139
3年	26 (13.0)	174
全体	135 (66.8)	67

水泳

	実施(割合)	未実施
1年	53 (26.2)	149
2年	50 (25.0)	150
3年	34 (17.0)	166
全体	55 (27.2)	147

バスケットボール

	実施(割合)	未実施
1年	131 (64.9)	71
2年	133 (66.5)	67
3年	161 (80.5)	39
全体	195 (96.5)	7

サッカー

	実施(割合)	未実施
1年	37 (18.3)	165
2年	51 (25.5)	149
3年	114 (57.0)	86
全体	130 (64.4)	72

スポーツテスト

	実施(割合)	未実施
1年	99 (49.0)	103
2年	93 (46.5)	107
3年	85 (42.5)	115
全体	99 (49.0)	103

器械運動

	実施(割合)	未実施
1年	102 (50.5)	100
2年	46 (23.0)	154
3年	7 (3.5)	193
全体	120 (59.4)	82

持続走

	実施(割合)	未実施
1年	187 (92.6)	15
2年	180 (90.0)	20
3年	49 (24.5)	151
全体	191 (94.6)	11

ハンドボール

	実施(割合)	未実施
1年	29 (14.4)	173
2年	23 (11.5)	177
3年	26 (13.0)	174
全体	51 (25.2)	151

ラグビー

	実施(割合)	未実施
1年	1 (0.5)	201
2年	3 (1.5)	197
3年	1 (0.5)	199
全体	3 (1.5)	199

表5-4 種目別実施状況(女子-2)

バレーボール

	実施(割合)	未実施
1年	133 (65.8)	69
2年	138 (69.0)	62
3年	162 (81.0)	38
全体	192 (95.0)	10

卓球

	実施(割合)	未実施
1年	41 (20.3)	161
2年	49 (24.5)	151
3年	105 (52.5)	95
全体	126 (62.4)	76

ソフトボール

	実施(割合)	未実施
1年	53 (26.2)	149
2年	70 (35.0)	130
3年	122 (61.0)	78
全体	145 (71.8)	57

柔道

	実施(割合)	未実施
1年	20 (9.9)	182
2年	13 (6.5)	187
3年	9 (4.5)	191
全体	25 (12.4)	177

弓道

	実施(割合)	未実施
1年	2 (1.0)	200
2年	1 (0.5)	199
3年	1 (0.5)	199
全体	2 (1.0)	200

ダンス

	実施(割合)	未実施
1年	67 (33.2)	135
2年	61 (30.5)	139
3年	35 (17.5)	165
全体	100 (49.5)	102

テニス

	実施(割合)	未実施
1年	79 (39.1)	123
2年	119 (59.5)	81
3年	159 (79.5)	41
全体	172 (85.1)	30

バドミントン

	実施(割合)	未実施
1年	63 (31.2)	139
2年	95 (47.5)	105
3年	150 (75.0)	50
全体	161 (79.7)	41

剣道

	実施(割合)	未実施
1年	19 (9.4)	183
2年	15 (7.5)	185
3年	7 (3.5)	193
全体	25 (12.4)	177

なぎなた

	実施(割合)	未実施
1年	1 (0.5)	201
2年	1 (0.5)	199
3年	1 (0.5)	199
全体	2 (1.0)	200